上陳地区の見守りの皆さん。前列左から廣田幸美さん(71)、永田光子さん(71)、宮本多恵子さん(70)、後列左から廣田律男さん(73)、宮本睦士さん(76)、下田絹子さん(74)

地区の老人会の皆さんは、毎朝、登校する児童たちを見守ります

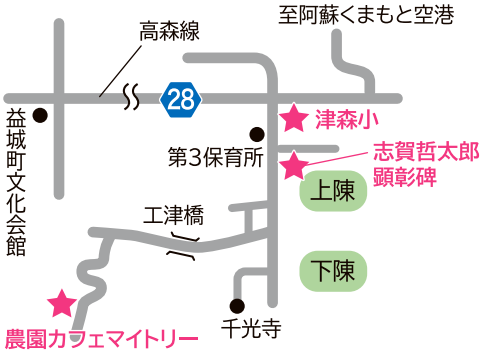
ちょっとそこまで

わがまち散歩

上陳・下陳編

「道すがら、心通わす人がいる 古里の温もりに包まれながら あちらこちら、わがまち散歩」

町の東方、西原村との境界に位置する津森地区。その中の上陳・下陳かいわいを散歩してみました。今回も笑顔あふれる出会いがありました。



「おはようございまぁす」「行ってらっしゃ～い」

「陳」と書いて「じん」と呼ぶ上陳・下陳地区。ここは、かつての津森城(下陳城)や辻の峰の山腹、金山川に挟まれた狭い平地に開かれた村でした。「陳」には「述べる」の他に、「平らに並べる」という意味もあり、その地形から付けられた地名と伝えられています。

さて、朝の7時30分ごろ。上陳・下陳地区では、ほほえましい光景が広がります。

「おはようございまぁす」

「行ってらっしゃ～い」

津森小学校に通学する地区の子どもたちは毎朝、登校を見守る地域の老人会の人たちと笑顔であいさつを交わします。この見守りは自主的に行われているもので、皆さんは雨の日も風の日も、雪の降る日も通学路に立ちます。

「下校時間になるとね、『おばちゃん、ただいま』と言ってくれるんですよ」と下田絹子さん。「どの子もよか子ばかるでね」と廣田律男さんが目を細めます。

そして皆さんは口をそろえて、「子どもたちは、理屈抜きでかわいい」と言います。地域で昔から育まれてきた「見守りの精神」は、こうして今も根付いています。

全員で「渡ります！右見て左見て、もう一度右を見て」と声を出して横断します

小学校前ではPTA母親部の佐藤幸枝さん(39)と充紀ちゃん(2)が登校の横断をうながしていました